

Interview01

ブライアン・ボンレンダー
ワシントン州政府商務長官 に聞く
AI開発の中心地だと宣言
中長期的視点の投資を歓迎する

Interview02

ビクラム・ジャンディアラ博士
ワシントン大学コモーションエグゼクティブディレクター に聞く
エコシステムの“ハブ”となり
起業家のマインドセットを育む

報告

イノベーション・ファインダーズ・キャピタル 江藤哲郎
〈寄稿〉「AIの首都」へ変貌するシアトル
世界中から人材、資金が集まる

Case01

AIアプリの開発期間を短縮する
機械学習用の高品質データを提供
米ディファインドクラウド社

Case02

顧客サービスを効率よく簡単にする
総合AIプラットフォームを開発
米チャットボックス社

米国シリコンバレーの成功を背景に、世界中で次々に起業家都市が生まれている。

その中で、「次のシリコンバレー」として注目を集める都市の一つが、西海岸の北部の都市・ワシントン州シアトルだ。アマゾン・ドット・コム、マイクロソフトなどが本社を置き、特にAI(人工知能)に関するスタートアップ企業が次々と生まれ、技術と人材、資金が集まりつつある。

19世紀半ばから木材の集散地として発展し、古くから日本と交流を持つシアトルは、日本とのビジネスに積極的であり、多くの日本企業にとって協業のチャンスが多い都市でもある。



本特集では、広く海外市場を見据えた戦略を持つワシントン州政府、起業を教育の基本とするワシントン大学、シアトルから巣立ちつつあるスタートアップ企業の声を紹介し、AIビジネスの最先端で何が起きているのかを取材。シアトルのスタートアップ・エコシステムの魅力に迫る。

特集

「AIの首都」目指す シアトル